

平成29年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント

- ・小学校国語の平均正答率は、国語A・国語Bともに全国平均を下回った。

正答率	小学校国語	
	国語A（知識）	国語B（活用）
国東市	74	53
大分県	76	58
全国	74.8	57.5

<領域別正答率>

分類	領域	国東市	大分県	全国
国語A	話すこと・聞くこと	58.8	69.6	69.2
	書くこと	57.7	62.1	60.6
	読むこと	68.7	71.2	70.2
	伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項	78.2	79.8	78.0
国語B	話すこと・聞くこと	59.5	65.0	64.9
	書くこと	48.1	54.7	53.4
	読むこと	47.6	49.7	49.2
	伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項			

- ・国語A「伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項」では、全国平均を上回った。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

<国語A（主として知識）>

（1）話すこと・聞くこと（1）

（出題のねらい：互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことができるかどうかをみる。）

○学級文集のタイトルを決める話し合いにおける野村さんの報告の説明として適切なものを選択する。

（国東市 58.8%・全国 69.2%）

- ・解答類型を見ると、多かった誤答の理由は「『太陽』がよい」以外に「『銀河』がよい」という意見があったために、「同じ意見でも理由がちがうことを報告している」に結びつけたためと考えられる。また、「ぜひみんなに考えてほしい」という表現が「学級全体で取り上げてほしい」という意図であることを捉えられなかったためと考えられる。設問の内容をよく把握し、正確に選択肢を吟味できるようにしたい。
- ・話し合いの指導にあたっては、目的や目指す到達点、進め方などを確認し、一人ひとりが司会者や提案者、参加者などの役割に基づいて、話し合う必要性を意識して進めていく必要がある。そのためには、教師の演示などによる話し合いのモデルを提示し、互いの考えの共通点や相違点を確認しながら話し合っていく様子を具体的に示すことなどが考えられる。また、特別活動において集団としての意見をまとめる話し合い活動を行うなど他教科等とも関連付け、児童の日常生活に生きて働くように多くの場を設定することが重要である。

(2) 書くこと (2) 二)

(出題のねらい：手紙の攻勢を理解し、後付けを書くことができるかどうかをみる。)

○手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する。

(国東市 38.7%・全国 41.5%)

- ・この問いは、「前文」「本文」「末文」「後付け」といった手紙の基本的な構成についての知識を問うものであった。誤答については「自分の名前を手紙の一番最後に書く」とした児童がいたと考えられる。
- ・指導にあたっては、手紙全体の構成や、後付けにおける署名と宛名の位置関係といった手紙の基本的な形式などについて指導する必要がある。また、相手や場面に応じて、丁寧語や尊敬語、謙譲語を適切に用いることも繰り返し指導していく。「宛名を最終行の上の位置に書くことで相手への敬意を示すことにつながる」など、手紙の形式がもつ意味についてもふれておきたい。また、依頼状や案内状、礼状などの実用的な文章としての手紙を書く学習活動を、国語科との関連を図りながら総合的な学習の時間や社会科等に意図的、計画的に設定していくようにする。

(3) 読むこと (4) 一)

(出題のねらい：俳句の情景を捉えることができるかどうかをみる。)

○俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する。

(国東市 75.3%・全国 79.4%)

- ・解答類型を見ると、アの俳句カードと中西さんの発言を読んで答える問いであるのに、イの俳句カードや本間さんの発言に反応してしまった児童もいたと考えられる。問題文のどの部分を読んでいくのかを適切に判断できるようにする必要がある。
- ・俳句の指導にあたっては、七音五音を中心としたリズムから、国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりすることを通して、文語の調子に親しむことができるように指導することが大切である。また、児童が俳句を繰り返し音読しながら、言葉の美しい響きや俳句のもつリズムに着目して、俳句に表れている情景や季節感、作者の思いなどについて、思い浮かんだことや感じたことを交流することで、想像を広げたり深めたりすることが大切である。

(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (6)

(出題のねらい：古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読むことができるかどうかをみる。)

○【「外郎売」の一部】を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する。

(国東市 61.3%・全国 71.1%)

- ・誤答の理由は、音読して気が付いたことについて、【ノートの一部】から適切に捉えることができていないためだと考えられる。「読むこと 4 一」と同様に、問題文のどの部分を読んでいくのかを適切に判断できるようにする必要がある。
- ・古文や漢文の指導にあたっては、読んで楽しいものであること、自分を豊かにするものであることを児童が実感できるように指導することが重要である。教材は、言葉のリズムを実感しながら読めるもの、音読することによって内容の大体を知ることができるものを選定することが大切である。音読や暗唱によって言葉やリズムを実感する学習が、本設問のような問いにも対応できる力となるであろう。

<国語B (主として活用)>

(1) 話すこと・聞くこと (1) 二)

(出題のねらい：話の構成を工夫して話したり、聞き手の反応を見て話したりすることができるなどのスピーチメモのよさを捉えることができるかどうかをみる。)

○グループの話し合いの中で、石田さんたちは、スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているかについて書く。

(国東市 60.8%・全国 69.2%)

- ・本設問は、【グループの話し合いの様子】の言葉を使うことと、四十字以内で書くことの2つの条件に沿って解答するものであった。誤答の理由は、本文中から該当部分を抜き出すのではなく、それぞれの学習経験に基づいて「スピーチメモのよさ」を書いたと考えられる。
- ・スピーチなどのまとまった発表を行う際の指導にあたっては、発表原稿を基に話すことのみならず、本問のように、スピーチメモを活用して話すことができるようにすることが大切である。具体的には、話

の構成を意識して、相手の反応を見ながら話すことが求められる。また、発表の意図に応じて、自分の考えが伝わるように複数の事例を取り上げたり、話す速さや間のとり方を工夫したりするなどして、考えながら話すことができるように指導することが考えられる。

(2) 書くこと (2) 一)

(出題のねらい：目的や意図に応じて、文章全体の構成を考慮することができるかどうかをみる。)

- 【緑のカーテンづくりへの協力をお願い】における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する。(国東市 62.4%・全国 70.8%)
 - ・誤答の理由は、選択肢1の「夏の教室が暑いとどう困るかの具体例」という部分と、【緑のカーテンづくりへの協力をお願い】の最初の部分「夏が来ると、教室が暑くなってこまったことはありませんか」を結びつけて解答したためと考えられる。「具体例を述べるとはどういうことか」をあらためて指導する必要がある。
 - ・目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考えて書く指導にあたっては、目的・意図・相手・方法ははっきりさせることや、常に読み手の立場に立って内容や構成を考えさせる必要がある。そのためには、読み手の立場から文章を客観的に評価し、文章を見直して書く活動を設定することが大切である。具体的には、構成の段階で友だちと読み合い、助言し合い、助言を基に文章を見直す活動が考えられる。また、普段から単元設定の段階で、児童の日常生活の中から書く必要のあることを取り上げて題材を選び、計画的に指導していきたい。

(3) 読むこと (3) 三)

(出題のねらい：物語を読んで考えたことを発表し合い、叙述を基に自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。)

- 「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く。(国東市 38.7%・全国 43.7%)
 - ・本設問は、3つの条件に合わせて自分の考えを書くというものであった。(条件は①【物語の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと②考えの理由③字数) 誤答は、①を満たしているものの、②の記述がなかったものが多くみられた。
 - ・物語を読んで、叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめる指導にあたっては、目的の叙述を見付けるために、場面の展開に沿って登場人物の言動や心情の変化を捉えて読ませる必要がある。また、複数の場面の叙述を相互に関係づけながら読むことができるようにすることが大切である。具体的には、物語全体を見通すことができる学習シートを用いたり、感想を記入したカード等を活用したりしながら、どの叙述に着目したのかを明確にして友だちと意見交流できるように指導していきたい。さらに、「条件に合わせた書き方」の指導も並行して行っておく必要がある。

3 指導の改善のポイント

(1) これからの国語科の授業づくりの基本的な考え方

- ①主体的・対話的で深い学びを促すために、以下の8点について留意し、単元構想と授業実践を行うことが大切である。

ア 児童生徒が興味をもつ教材・題材	イ 魅力的な課題の提示、児童生徒による課題の発見
ウ 学習の見通し、本時の目標(めあて)の明示	エ 課題解決的な学習、既習事項を活用する学習
オ 自分の考えを発表・交流する機会	カ 「できた」「わかった」の実感
キ 「できたこと」「わかったこと」の振り返り	ク 日常生活、社会生活への広がり

- ②国語科は、児童に付けたい力を付けるために、言語活動を単元全体で取り扱い、言語活動を通して指導事項を指導する教科である。学習指導要領改訂後も、国語科の言語活動で育成した言語能力は、他教科の基幹になることは言うまでもなく、今後とも更なる言語活動の充実を図り、授業改善を推進していくという方針は不変である。

(2) 国語科授業改善の方向性

新学習指導要領を鑑み、これまでの国語科の授業を振り返った上で国語科の授業改善の方向性を以下に示す。
(具体的留意点)

①適切な言語活動の設定とその充実

ア) 付けたい力を付けるのにふさわしい言語活動であるか

- ・単元を構想する際には、付けたい力と言語活動との領域のミスマッチはないか、よく吟味する必要がある。そして、主たる学習活動の設定時間数は十分であるかも併せて考えておきたい。
- ・言語活動を設定した後、課題解決のための手法は適切であるかを考えていく。場合によっては、児童の学習状況(付けたい力が付いているのか等)を把握しながら、弾力的に修正していくことも大切である。

イ) 多様な図書資料等が有効に活用されているか

- ・目的に応じた言語の能力を身に付けさせるために、国語科の教科書だけでなく、多様な図書資料等(書籍、新聞、その他のメディアからの情報)を用いることが必要である。多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分を詳細に分析する読みの指導が可能となる。また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づけて読むことの指導にあたる必要がある。
- ・そのためにも、「不読者」を少なくする取組が必要である。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、読書によって豊かな語彙形成につながったり、自分を高めたりできるという視点からも、引き続き読書指導の在り方を見直す必要がある。

質問紙：「あなたはこの1ヶ月の間に本を何冊くらい読みましたか。」(単位は%)

冊数	0	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~20	21~30	31冊以上	その他
全国	5.3	17.3	19.7	16.4	11.1	11.3	9.8	4.1	4.7	0.2
大分県	6.5	15.1	15.7	13.9	9.8	12.1	11.9	5.7	8.8	0.5
国東市	4.0	14.5	15.6	16.8	6.4	19.1	11.6	5.2	6.4	0.6

ウ) 既習事項(または知識・技能)を活用する言語活動であるか

エ) ウ)のために知識・技能の確実な定着を図っているか

オ) 児童の興味関心を喚起する言語活動であるか

- ・興味関心を喚起する言語活動を行えば、国語科の学習が「好き」という気持ちが強くなり、学びに向かう力につながる。

カ) 発表や交流活動を設定した言語活動であるか

- ・本当に話し合いが必要なのか、必要であれば、どのような形式の話し合いが適切であるのかを吟味した上で行うことが大切である。また、ペア学習やグループ学習のみに終わらないために、児童自身に気付かせることと教師が教えるべきことの整理をしておく必要がある。
- ・話し合う手段をとる際には、「何のために」「何の力を高めるために」行うのかということ、児童自身にも自覚させるように心がけたい。
- ・発表の際、ただ原稿を読み上げるようなものになっていないか、ということも重要な指導のポイントである。例えば、メモをもとに発表する、ということも活用力を高める上で非常に重要である。

②生徒の主体的な学びを促す「めあて」等の設定、指導に生かせる「より具体的な評価規準」の設定

ア) 適切な「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定があるか

- ・以下の資料を参考にして、設定すること。

「児童生徒の主体的な学びを促す『めあて』『課題』『まとめ』『振り返り』の設定例」

「主体的・対話的で深い学びを実現するための単元(題材、主題)計画 例」

<http://kyouiku.oita-ed.jp/gimu/2017/05/291.html>

イ) 指導事項・指導領域・評価の焦点化が見られるか

ウ) 単元・指導過程・本時の評価規準に整合性があるか

- ・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、整合性をもったより具体的な評価規準(概ね満足できる状況)を設定することが求められる。見取りができていく評価規準は、指導・

支援が曖昧になってしまうと考えられる。

- エ)「B 概ね満足できる」状況が具体的に想定され、それを判断する場面や方法は具体的で適切であるか
 - ・評価の場面は1時間で1、2箇所が妥当である。
- オ)「C 努力を要する状況」の児童への指導や支援は行われているか、またその方法(手段)は有効であるか
 - ・具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、また、評価規準に基づき「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。

③参考資料を活用した授業実践

- 全国学力・学習状況調査の調査問題
- 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/>
- 「小学校国語科映像指導資料～言語活動の充実を図った『読むこと』の授業づくり～」
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryuu.html>
- 「平成28年度『小学校学力向上対策支援事業』 個に応じた指導の手引き 小学校 国語科・算数科編」

(3) その他、国語科授業で取り組むべきこと

①学習用語の確実な理解

- ・必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。そのために、小学校で使用する教科書に掲載されている学習用語は、その学年で確実に理解させることが大切である。既習の用語は授業で使わせ、指導者が曖昧な言葉を使わないようにしなければならない。

②言語活動の成果物の掲示や展示

- ・作成したものを互いに見ることで、児童の励みになるとともに、ものの見方や考え方が広がる契機にもなる。また、言語活動に関連する資料の紹介も学習環境を整える意味で有効である。

③記述する活動の充実

- ・記述は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域の力を向上させるのに有効である。

例(話す・聞く) インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿等
(書く) 鑑賞文、図表などを用いた説明・記録、案内、意見文、批評文
(読む) 文章を読んで解釈し、自分の考え(感想や意見、評価、批評等)を明確に書くこと。
目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

- ・また、条件に即応して記述しなければならない場面を設定することも有効である。時間・字数・文章の形態や種類・文体・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法・構成等、条件を踏まえる必然性のある課題を設定していきたい。

(4) 学校全体で取り組むべきこと

①漢字や語句、文法、表現技法等の習得

- ・漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。また、国語科以外の教科の時間に、既習の漢字を必ず使用するよう指導することも大切である。

②全校一斉読書や各教科における学校図書館の活用

- ・様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく科学的な読み物等にも手を伸ばすように指導する必要がある。学校司書等と連携し、バランスのよい読書指導をすることが重要である。
- ・学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる。例えば、新聞を児童の見えるところに掲示し、自然と情報が入ってくる環境を作ることその第一歩となる。また、国語科だけでなく各教科や領域において、図書館活用の推進をしていきたい。

③全国学力・学習状況調査についての研修や情報共有

- ・全国調査の結果分析を各学校の指導の充実に活かすために、学校全体で情報を共有し、授業改善のベクトルを揃えることが重要である。